

## 予 算 委 員 会 会 議 録

1. 日 時 平成25年12月3日(火曜日)  
午後0時58分～午後1時35分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 高木法生 委員長 下井克己 副委員長  
竹岡昌治 委員 徳並伍朗 委員  
荒山光広 委員 西岡 晃 委員  
河本芳久 委員 岩本明央 委員  
山中佳子 委員 三好睦子 委員  
萬代泰生 委員 岡山 隆 委員  
馬屋原 眞一 委員 俵 薫 委員  
坪井康男 委員 秋枝秀稔 委員  
猶野智和 委員 秋山哲朗 議長  
村上健二 副議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員  
石田淳司 議会事務局長 岡崎基代 議会事務局補佐  
大塚 享 議会事務局係長
6. 説明のため出席した者の職氏名  
村田弘司 市長 林 繁美 副市長  
永富康文 教育長 波佐間 敏 総務部長  
大野義昭 総務部総務課長 白井栄次 総務部財政課長  
篠田洋司 市長統合戦略局長 古屋壮之 市長統合戦略局政策戦略課長  
田辺 剛 総合政策部長 山田悦子 教育委員会事務局長  
末岡竜夫 教育委員会事務局次長 高橋文雄 教育委員会事務局文化財保護課長

午後0時58分開会

○委員長（高木法生君） それでは、ただいまより予算委員会を開会いたします。それでは、本日の本会議におきまして本委員会に付託されました市長提出議案2件のうち、議案第1号につきまして審査いたしたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、議案第1号平成25年度美祢市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。執行部より説明を求めます。はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） それでは、議案第1号平成25年度美祢市一般会計補正予算（第6号）について御説明いたします。

議案書1-10、11ページをお開き願えたらと思います。款総務費・項総務管理費・目ジオパーク推進事業費におきまして、施設整備工事として830万円増額補正しております。

これは、日本ジオパーク認定を目指しました取り組みのひとつとする市役所内部の組織機構改革に伴いまして、世界ジオパーク推進課を秋吉台科学博物館内に設置するための施設整備による工事請負費でございます。

具体的には、秋吉台科学博物館1階の壁、床など81㎡の改修、それと2階にあります研究室へのエアコン設置などがございます。以上でございます。

○委員長（高木法生君） はい、白井財政課長。

○総務部財政課長（白井栄次君） 続きまして、歳入について御説明を申し上げます。恐れ入ります1-8、9ページをお開き願います。

歳入につきましては、10款・1項・1目地方交付税を歳出の同額を830万円増額し、充当することといたしてございます。議案第1号平成25年度美祢市一般会計補正予算（第6号）の説明につきましては、以上でございます。

○委員長（高木法生君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねします。設計図とかはないんでしょうか。書籍が本当にあそこで山積みされてるんですけど、どのように増改築されるのでしょうか。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 三好委員の御質問にお答えいたします。今設計図は手元に配付しておりません。誠に申し訳ありません。口頭で説明させて頂

きますと、秋吉台科学博物館の1階の事務室ですが、ここが事務室、それから会議室と三つのスペースに分かれております。その三つのスペース81㎡分、これを三つを二つのスペースにつくり替える作業が一番大きなものでございまして、それと先ほど申し上げました博物館につきましては、2階の研究室、ここに二部屋ありますが、エアコンを設置する工事。

それと山積みされた資料というふうに、今発言がございましたが、資料の収集倉庫として、今、秋吉台旧管理事務所、ここが収集の倉庫になっております。ここが132㎡面積としてありますが、ここの床を新しくして、そこに収納をきちっと出来るような形にすること。

それと秋吉台のバス停留所がございまして。その2階が科学博物館の第2講座室となっておりますが、この第2講座室、ここが12.9㎡ございまして、ここの床の張り替えというような内容でございまして。以上です。

○委員長（高木法生君） ほかに質疑はございませんか。はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） お尋ねしたいことは、博物館は現在も手狭で、しかも1階には館長室、事務室、会議室といった本当に小さな、現在も科学博物館の機能をしっかり発揮させようとするれば、資料倉庫の問題、そして、今、会議室そのものも会議室になっていない。そういったもろもろの、博物館業務そのものを推進するにあたって、支障が起こるんじゃないかと。支障じゃなくて、これ一体化すればいいんだということのほうにも受け止められますが、要するに、この推進室はある程度恒常的にここでジオパーク関係の活動をされるのかどうか、それが一点。

そして、今、博物館の活動そのものが、制限されるんじゃないかと、そういう懸念も持ってるわけです。そういったことに対してどう考えておられるか、お尋ねしたいと思います。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 河本委員の御質問にお答えいたします。博物館内で新しくできました世界ジオパーク推進課は、あそこに今在席しております研究される学芸員の方とともに、そこで仕事をしてまいります。それも、全ては世界ジオパークを目指すための第一歩であろうというふうに思っております。

2点目に制限されるのかと、博物館での研究そういうものが制限されるのかということですが、むしろ制限されるというよりも、今以上にその博物館業務

に力を注ぐという見方を私どもはしております。ですから制限されるというより、むしろ、今の研究がもっともっと拡大するような方向性に仕事を進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（高木法生君） はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） ただいま人員配置がなされているようですけれども、正式にはあちらのほうで勤務されるのは何名になるんですか。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 本日この委員会で御審議いただきまして、本会議におきまして議決していただければ、きょうにでもすぐ工事発注の事務処理を開始いたしまして、実質今担当者から聞いておりますのは、この改修に至っては約30日から40日くらい工事の期間が必要であろうというふうに聞いております。

その前に、今あそこで勤務しておる者があらかた整理とかする期間がございますので、遅くとも、今年度内には私ども世界ジオパーク推進課は、そちらのほうに行って博物館での勤務を始めたいというふうに考えております。以上です。（発言する者あり）職員数はジオパーク推進課は4名でございます。以上です。

○委員長（高木法生君） よろしいですか。はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） 現在学芸員が2名と事務職員が1名と、そして、パート職員1名と、そして何人かの指導員さんたちがおられると思います。合わせて、この施設が管理事務所の機能をもって今まで来たし、現在もいると思います。県のほうの公園管理、そういった面から職員も配置されてるようですが、そういった現在もかなりの人数がおられますが、その辺の仕事の面で少し手狭になってくるのではなかろうか、あの施設で。

しかも、これが1年だけではなくて何年も続くということになれば、先ほど委員会でも博物館に対する設置、改装、そういったものの構想というものが検討されて行くのかどうか、その辺のところも、今の段階で分かりませんでしょけれども、予想とされてそういったことは考慮されてるのかどうか、お聞きしたいと思えます。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 先ほどちょっと口頭での説明で図面がない

ので分かりにくかったかもしれませんが、河本委員がおっしゃいました3部屋、館長室と事務室と会議室とございますが、館長室と現在の事務室の壁をぶち抜く形で、その中に推進課とそれと今そこで業務している学芸員とが、一緒の空間で仕事をするようになります。ですから、同じ空気を吸いながら、しっかりタッグを組んで同じ方向に向いてやっていこうというような形です。

それにしても、まだ狭いのではないか、どっか別のところというような話でございますが、先ほど本会議場でもありましたが、これから先は、まだまだ自分たちの意思だけであらうだといえる段階ではございませんので、さまざまな諸関係の方々からいろんな御意見を聞きながら、その辺りは最終的なもっていき方というのは決定づけられるというふうに考えております。以上です。

○委員長（高木法生君） ほかにございませんか。はい、岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今回のこの補正について、この施設整備工事ということで830万円付いております。そこで、一点だけ私気になることがちょっとあります。それは秋吉台博物館が建設されてから、確か昭和35年頃だったとっております。それで実数も54年経過してますね。今度今言われたように、部屋を二つぶち抜いて壁を一つの部屋にするということを言われまして、問題は、この830万円のうち、きちっと今そこにおられるところをなんらかの耐震化をされていくことというものは、私は非常に必要ではないかと、このように考えております。そういったところの配慮、対応について、きちっと対応されてるかどうか、この点についてお聞きしたいと思います。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 今回の改修、壁を一つぶち抜くことに関しては、耐震化等の検討はしてありませんが、建設課におります一級建築士がきちっとした現地で確認をして、それを壁を抜いても大丈夫だという結論のものの図面を起こしておりますので、その辺りは当面は心配ないと思いますが、やはり今岡山委員おっしゃいましたように、50年経っている建物ですから、将来的にはなんらかの耐震補強が必要になるということは、十分自覚はしております。以上です。

○委員長（高木法生君） はい、岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 最後まで一点なんですけれども、今後そのジオパーク推進室、学芸員等、また市からの職員も行かれるわけでありましてけれども、今後山大と

の提携で美祢市におけるジオ、地質学的な付加価値、プレミアムを発信して行くことと思いますけれども、具体的にその辺については今後、このところからより新たな発信源というものは、どういったものでされるか、少しでも方向性が分かればお願いします。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 現在は推進本部という形で存在しておりますが、今後はまた組織の拡大、拡充を含めた形で、今既に下絵は出来ております。それをまた市長の判断を仰ぎながら、新たな組織づくりというのをどんどん進めてまいりたいと思います。まだ検討中ということで、最終結論に達しておりませんので、この場ではちょっとはっきりと申しませんが、そういう方向性で取り組みたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（高木法生君） ほかにございませんか。はい、坪井委員。

○委員（坪井康男君） 河本委員さんの質問に関連いたしますが、将来構想についてはまだ方向性が出てないと、こういうお話でございます。それはそれで分かりますが、ことし認定が見送りになった時のいろんな理由として、中核施設が不十分だという説明でございましたけれども、しからば認定を受けたところが、中核施設というのは、どのくらいの規模でどんな内容のものかということぐらひは調査されておると思いますので、そういう観点からいって、かひもく見当が立たないと、将来構想について。それは、私はいくらなんでも勉強不足だし、研究不足だと思います。だから、その点からほかのじゃあ中核施設はどうなってるのか、おっしゃってください。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 坪井委員の御質問にお答えいたします。今まで一番の認定地であります糸魚川市、ここではフォッサマグナミュージアムと申しまして、やはり関東ローム層の地層の変化するところですか、その専門のやはり立派な建物が建っております。ですから、そういう先例、前例のところを見渡しますと、やはりかなり大きなコストがかかることじゃないかと思っておりますので、今この場でなかなかつくるんだというような、そこまでの発言には至らないというのが、私の今の立場での発言でございました。以上でございます。

○委員長（高木法生君） はい、坪井委員。

○委員（坪井康男君） 今の答弁分からんでもありません。しかし、ジオパーク構想というのは、うんと前から進めておられるわけですし、ほかの認定を受けたところがどういう内容で、どういう施設で、どういう形で認定を受けたかということは、当然ねフォッサマグナ糸魚川静岡構造線のあれだけではなしに、調べられておるはずですよ。認定見送りになったからって、突然一生懸命勉強するって、少し準備不足も過ぎるじゃないですか。

しかも、今これは大変失礼な言い方ですけど、とってつけたように科学博物館でやるなんて、最初に認定審査したときに中核施設はどこでやってたんですか。科学博物館ではダメだということじゃないんですか。その辺もうちょっと親切に丁寧に、市民に分かりやすく説明してください。どうも奥歯に物の挟まったような説明で納得出来ません。説明してください。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 認定見送りになったということで、今の中核施設はどうなんだということですけど、中核施設が先ほど来から私、秋吉台科学博物館いうようなこと申しましたが、ほかにも歴史民俗資料館、それから化石館、それから長登の文化交流館いうふうにございます。そういう点在したものをどうにかせんにゃいけんというような意識もございます。

それから先は、それからなかなか事務方ばかりで、それをどうするかというのを話していたんじゃ今結論が出ないというのは、やはり、学術的見地からそういう指導をいただくというのが、やはり一番大切なことというのが判明をいたしております。ということで、山口大学のほうの御意見、ここがやっぱり最大限に聞いて参考にするというか、その道筋を立てていただくというところじゃないかと思っておりますので、説明はこれぐらいしか今の時点では本当に申し訳ないですけど出来ませんが、その山口大学との連携を強化した形で、それをどういうふうにするかということも、今後練って行く命題であろうというふうに考えております。以上です。

○委員長（高木法生君） はい、坪井委員。

○委員（坪井康男君） 単に今回の科学博物館の改装について、どうこう申し上げてるんじゃないです。ジオパーク構想の推進というのは、もうかなりの時間をかけてやってるわけですよ。やってる場合にどういう中核施設であつたらいいのか、それから、どういう大学との連携であつたらいいのか、要件は十分調査されてはじめら

れたんじゃないんですか。初めて今回認定見送りで、あらまあそういうことだったんかとかこういう話なんですか。

そういうもう少し、今まであれだけあれだけ一生懸命市長以下、私どもTシャツを着ながら、一生懸命認定を受けようとしたんですよ。その割には何かもうほんとなにをしようとしたんだと、そういう市民の皆さんそう思ってますよ、みんな。あれだけ一生懸命やったのに、全然なんか途中の今二つの要件ですよ。中核施設、それから大学との連携なんて。まるで何か結果においてそれが原因だったって、これ少し乱暴すぎる話じゃないんですか。もう少し市民の皆さんに丁寧に経過からいって説明すべきだと思いますよ。もう少し丁寧に説明してください。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 坪井委員、今末岡ジオパーク推進課長が一生懸命理解をしていただけるように懇切丁寧に説明をしておったと思います。乱暴な説明もしておりませんし、ごまかすような説明もしておらんとと思います。

貴方も若い頃からいろんな勉強をされたりされて、学校の試験なんかも受けられたでしょう、我々も世界ジオパークを目指す上において、ユネスコが目指しておる地質資源を大事にして、そして、それを保全をしながら、そして、それを有効に活用して地域振興に結びつけていこうという大きな理念をもって、このジオパークに向けての推進を図って来たわけです。そして、市民の方に広くそのことを御理解をいただいて、ともに頑張りましょうということをやってまいりました。

しかしながら、日本ジオパーク委員会のほうにおかれては、地域振興よりもまず第一次的な地質資源を大切にしておくことを重点に置かれてるということもよく分かってまいりました。そのことを受けて、今回結果的に我々美祢市のジオパークはもうちょっと待ってくれという御判断をされたということです。

特に我々に言えることは、秋吉台、秋芳洞というふうな、ある意味日本国内だけではない世界的にも有名な観光地も兼ねてるということです。ですから、このことが逆に、その地質を専門にしておられる方にとっては、その保全について大きな悪い影響があるのではないかということもおっしゃっておられるわけです。

ですから、そのことを踏まえた上で、じゃあ今後先々日本ジオパーク、そして世界ジオパークになっていくためには、どういうことをすればいいかということを経再整理して、いろんなことを提示をしていくわけです。ですから、今までやったこ

とが全て何もやってなかった、それは無に帰したということではない。今までやったことがあったからこそ御指摘をいただいた。そして、それを受けて前に向けてやっていこうということで、今回の補正も出したということ、そのことが御理解出来るだろうと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（高木法生君） はい、坪井委員。

○委員（坪井康男君） 私が伺ったのは、今市長さんがおっしゃったようなことじゃないんですよ。一つだけ市長さんをお願いですけど、前段で私が勉強したとかしないとか、あれ答弁ですか、おかしいですよ。いつも貴方は答弁する前に人のことを評価なさる。これだけは今後絶対止めてください。お願いします。

それから、今回認定が見送りになって初めて、あら、そうだったのかという程度の準備しかしておられなかったかという質問なんですよ。だって、中核施設なんてもう既に認定受けたところあるんです。さっき糸魚川の施設だって壮大なあれがあるっておっしゃったじゃないですか。それに比べて、科学博物館程度では十分じゃない。あるいは、山大の理学部との提携とおっしゃるけど、山大の理学部が僕はあんまり地質学科はそんなに充実してるとは思いませんよ。

だから、どの程度しっかり二つの問題ですよ、大学との提携と中核施設の問題について、今までどの程度研究して対応されて、それでもなおこの点が不足だったというのなら話は分かりますけどね。何か認定見送りになって初めて分かったというようなことおっしゃるから、私お聞きしてるんです。もう一回答えてください。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 前段で触れられたですね。このことを申し上げたのは、貴方のこと評価してるということじゃなしに、人生生きていく上において、どなたも学校で試験受けられて100点満点が取れなかったと、いうことあるでしょう。そういうことを申し上げたということで、我々美祿市もジオパークに向けて一生懸命やって来たけれども、評価が我々が望んでおったような形にはならなかったと、それは人生においてもいろんなことを団体として会社としてやられることもあるでしょう。ところもあるでしょう。そのことを申し上げたということで、常に100%のことができて、そして100%結果を得られるということは、世の中あり得ないということですね。

ですから、我々が今までやって来たことが、無駄に足をかいておったということ

ではなしに、将来の美祢市の振興、そして素晴らしい地質資源を保全していこうという立場でやってきたことは、私は間違いはないし、美祢市の職員について、もそのことで一生懸命やって来たという現実間違いはないというふうに思っています。

ですから、それを受けてやっていこうということ、そして、今中核施設がダメなのが初めから分かったことじゃないかというふうなニュアンスですけれども、そうじゃないですよ。旧秋芳町において、本来であれば国定公園の上に建立されておる科学博物館、国立だってもおかしくなかった。そして県立だってもおかしくなかった。それを、単独町で建立されて、それを一生懸命守って来ておられたのを我々は受け継ぎましたから。ですから、あれを中核施設としてジオパークのほうにお出ししておったけれども、現実ここに調査に入られました、2日間。そして、その時見られてこれは古いなど。そして展示の仕方も古いなど。これはしかし、如何ともしがたい施設の古さがあります。

ですからそれを踏まえた上で、じゃあ今後こうしていったほうがいいじゃないかということの含みも持たせて、今回の見送りがあったというふうに理解をしております。ですから、現状はそれを利用して、いかにそれをもうちょっと展示しやすくするかとか、研究をしやすくするかということと並行してしつつ、あれでは先ほど河本委員もおっしゃいましたよね、河本委員は元秋芳町の町議会議員もしておられたんですからよく御存知でしょう。手狭であるということもありますよね。ですから、それも踏まえて、今後大きなあれを建て替えるためにはお金もかかります。そしてそれをどこにつくるか、そしてどういうふうな機能を附帯させるかということも含めて、もっと深く広くそれを積み上げた上でやらないと、無駄なお金を投資することになりますから、そのことを先ほどから末岡課長は申し上げておるということで、それが言葉が不足しておるとは私は思っておりません。以上です。

○委員長（高木法生君） はい、坪井委員。

○委員（坪井康男君） もうこれで最後です。こんな水掛け論いくらしたってしょうがありません。私が申し上げておるのは、やはり、認定が今年度見送りになったと、そういう重たい事実、それはなぜ認定が見送りになったのかと。今市長のお話聞くと、中核施設は科学博物館で十分だと思っておったと、ところが結果において見に来られたらあれではダメよと言われたと、こういう説明なら分かります。

それから大学との連携、山大の理学部の地質学科がどの程度のあれか私は知りま

せんけれども、あそこではダメだと言われたのか、あそこでもいいけれど、もっと何で協力を得てやらなかったかとか、そういう原因の分析がなければ、先に進まないんじゃないですかと。

今市長さんのおっしゃったことは、私の質問とは全然違うことを抽象論、一般論でおっしゃるから、どうしても噛み合いません。

私が申し上げたいのは、原因分析なくして将来進みません。だから、その原因をしっかりと分析して、いろんな施設があると、それを統合しなくてはいかんという話もさっき末岡課長からおっしゃったけど、やっぱり今までやってきたことは、あまりにも準備が私は足りなかったと思ってるんですよ。その反省がなくして、いくら将来に何かきれいごと並べたって無理だと思います。以上です。もういいです。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 坪井委員、反省があるからこの補正が出ておるということを御理解賜りたいと思います。山大の意見があったんじゃないか、あれじゃ古いから、狭すぎるからということ、今ちょっとおっしゃった。そういうことも御指摘があったんじゃないか、そういうことも分析してなかったから落ちたんじゃないかというふうな言い方をされましたけれども、指摘があったにしろ、先ほど申し上げたように、あの科学博物館をあとという間に高いお金をかけて建て替えるということが不可能ということは、十分に現実的に御承知でしょう。それを踏まえて言うておられるんだろうとは思いますが、その現実を踏まえた上で、将来どうすればいいかということ非常に緻密に分析をして、今この補正が出ておるといことです。

○委員長（高木法生君） はい、河本委員。

○委員（河本芳久君） 一つだけ確認しておきたいのは、長年私も科学博物館の事業の関わり、そこの職員、住民からお尋ねしてこられたのは、今回の人事構想の中にも出てないから、いわゆる館長の位置付け、教育施設、やはりそこには博物館長、公民館長という、特に今後館長の位置付け、館長の役割、そういったものがジオパークの推進においても大きな比重を占めると思うんです。

そういった館長の存在というのが今回どうなったんだろうかなど。いわゆる博物館長ですね。この館長というのが、単なる兼任でおいとけばいいという訳じゃなくて、教育施設にはそれが全責任を持って管理運営に当たる最高の責任者なんです。

そういったものが見えてこない中で、これどうだろうか、どういうふうに構想考えておられるんだろうかなと、そんな思いがしたので、ちょっとその辺は今後いろいろまた、たくさん来られた館長どうなったかとかこういうことを聞かれると思いますので、一つその辺の見解を示していただきたい。以上です。

○委員長（高木法生君） はい、村田市長。

○市長（村田弘司君） 人事は100%私の専権において、私の責任において行っておりますので、私がお答えいたします。

今回、この午前中の御質問の時もされまして、末岡局次長のほうからお答えをいたしたと思いますけれども、教育委員会のほうに移管をして、しかしながら、教育委員会が本気になって動いていただくわけですけれども、しかしながら、やはり市本体が、市長部局がそれと力を合わせてやっていくということなしに、ジオパークの旗を掲げることは無理だろうというふうに思っております。ですから、先ほど来答弁しております末岡を私の市長統合戦略局の局次長という立場と、そして、教育委員会の事務局次長と兼ねさせる形にしております。

そして、今言われた科学博物館の館長業務ですが、これは文化財保護課長が兼ねております。というのが、文化財保護課長も学芸員でありますし、専門的な分野もっております。彼がやはり館長を兼ねるべきであろうということが一点と、それと末岡次長は教育委員会の局次長ですので、末岡局次長を館長にしてしまいますと課長が上になっていもうんですね、だから良くお分かりでしょうけれども、組織上の矛盾が起こるということになります。ですから、この末岡局次長が館長と手を組んで、科学博物館をより良いものにするということに努めて参りたいというふうに思っております。

ですから、館長そのものは高橋といいますけれども、文化財保護課長が兼ねてやるという形で十分に力を振るってもらいたいですし、併せて、その上位の階層でもあります教育委員会の事務局次長である末岡次長が今度はあそこのほうに常駐いたしますから、大きな体と大きな声と大きな志をもって、そして一生懸命やろうというふうに思っております。以上です。

○委員長（高木法生君） ほかに御意見ございませんか。はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） すいません。お尋ねします。先ほど書類といったそうですいません。書籍です。管理事務所のほうにもって行かれるということですが、事務所

と離れとって不便はないのかと思うんですが、いいのかなという点と、そういった不便があれば、増築とかまた新築とか考えられるのではないかと思います。ジオパーク認定に向けて本当に博物館は重要な役目を果たすので、そういった新築の意向があるかないかということをお尋ねします。

それと議題にはありませんけど、このたびあそこの秋吉台科学博物館に私の考えなんですけど天体望遠鏡あれをつくってもらったら、修学旅行生もたくさん来て、秋吉台に泊まってもらえるのではないかと思います。ジオパークの地質の勉強しながら、天体も見ると。本当に修学旅行生の集客に役立つと思うので、そういった気持ちがあるかないかということと、多額な金がいるということで、国や県に支援を求めて、国立にしてもらおうとか、県立にしてもらおうとか、何か支援をもらえるような策があるかないかということも検討していただいて、博物館をより充実したものに、台上で充実したものにさせていただきたいと思いますが、そういった構想を考えかどうかお尋ねします。

○委員長（高木法生君） はい、末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） 三好委員の御質問にお答えいたします。倉庫の話が一番最初に出ましたが、確かに委員がおっしゃいますように、手元に全て、手が届くところに近くにあるのが一番ベストな状況だろうと思いますが、現在のところは、今ある施設をあるように使うと。最少のコストでまずはスタートしてみようと思っております。

それと、その後何点か貴重な御意見いただきましたけど、この場では貴重な御意見ありがとうございますということで、具体的にはどうこうということは、私どもからはございません。以上です。

○委員長（高木法生君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。それでは本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） それでは、これより議案第1号平成25年度美祢市一般会計補正予算（第6号）を採決いたします。

本案について原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） 全員異議なしと認めます。よって議案第1号は原案のとおり可決されました。

以上もちまして、本会議で本委員会に付託されました議案につきましての審査を終了いたしました。

その他、委員さんから何かございましたら、御発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（高木法生君） ないようでしたら、これにて本委員会を閉会いたします。

御審査・御協力誠にありがとうございました。お疲れさまでございました。

午後1時35分閉会

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成25年12月3日

予 算 委 員 長 高 木 法 生